

令和7年度 2月号

令和8年1月30日

## 伏見南浜だより

笑顔 かがやく 南浜の子 ～自ら人とつながり 学びとつながる力の育成～



京都市立伏見南浜小学校 校長 三上 美香  
TEL 075-611-0091 FAX 075-611-5107  
minamihama-s@edu.city.kyoto.jp



子どもを共に育む  
京都市民憲章  
京都はぐくみ憲章  
社会のあらゆる場で実践し、  
行動の範を広げましょう！



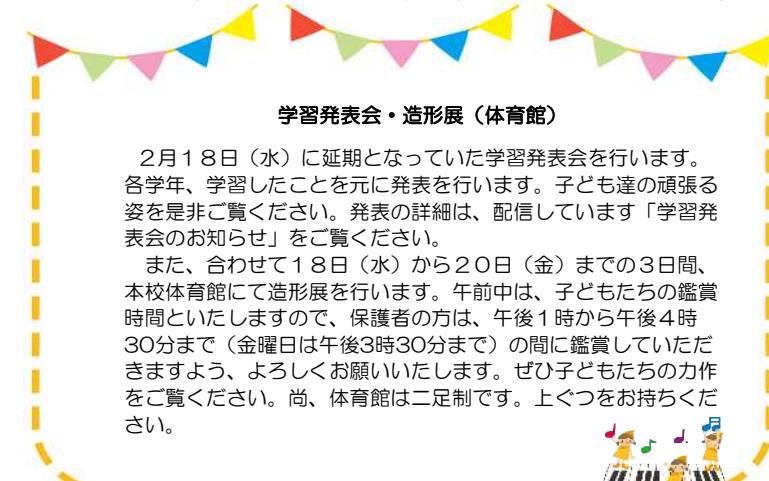
目に見えない力がいっそう求められる時代になりました。「どんな子どもに育ってほしいですか」と尋ねると、多くの方が「優しい子に」と答えられます。優しさは、生まれつきの性格で決まるものではなく、日々の環境や周りの大人のふるまいの中で育まれていく力だといわれています。

例えば、満員電車で赤ちゃんを抱いた方を見かけたとき、そっと席を譲る大人の姿を見て育った子は、同じ場面に出会ったときに自然と体が動くようになります。一方で、「こんな時間に乗らなければいいのに」とつぶやく姿を見て育った子は、同じようにつぶやくようになるかもしれません。子どもたちは、周囲の大人のささいな言葉や行動を確かに受け取りながら成長します。だからこそ、環境の力は本当に大きいのです。

同じことは「あいさつ」にもいえます。「あいさつのできる子になってほしい」という願いは、多くの保護者の方が、我が子に望むことではないでしょうか。しかし「あいさつしない」と言い続けるだけでは、なかなか身につきません。大人が先に気持ちのよいあいさつをする姿を見せ、あいさつが当たり前に交わされる環境が整ってこそ、子どもたちは自然と身についていきます。あいさつは人と人をつなぎ、誰からも愛される子へと育つ第一歩です。伏見南浜の子どもたちが、地域の中で温かくあいさつを交わせる子に育ってほしいと願っています。

先日の学校評価アンケートでは、「我が子にどのような力を身に付けてほしいか」について、多くのご意見を寄せていただきました。自由記述の中には、まさに環境を整えれば身につく力、そして大人の姿勢によって伸びていく力がたくさん挙げられていました。アンケートへのご協力に心より感謝申し上げます。詳細は別紙にてご報告しますが、どんな子どもを育てたいのか、その姿を大人が共有し、学校・家庭・地域が同じ方向を向いて環境づくりに取り組むことの大切さを改めて感じました。子どもへの寄り添い方について、今月のほけんだよりも保護者の皆様に伝えたい内容が掲載されていますので、ぜひお読みください。

子どもたちは大人の本気をしっかりと感じ取ります。これからも、優しさやあいさつを自然と交わせる、温かい伏見南浜の子どもを、皆さんとともに育てていきたいと考えています。どうぞよろしくお願ひいたします。



2月18日(水)に延期となっていた学習発表会を行います。各学年、学習したことを元に発表を行います。子ども達の頑張る姿を是非ご覧ください。発表の詳細は、配信しています「学習発表会のお知らせ」をご覧ください。

また、合わせて18日(水)から20日(金)までの3日間、本校体育館にて造形展を行います。午前中は、子どもたちの鑑賞時間といいたしますので、保護者の方は、午後1時から午後4時30分まで(金曜日は午後3時30分まで)の間に鑑賞していただきますよう、よろしくお願ひいたします。ぜひ子どもたちの力作をご覧ください。尚、体育館は2足制です。上ぐつをお持ちください。

## 令和8年度入学新1年生 体験入学・学校説明会・物品販売

2月6日(金)に令和8年度入学予定の1年生の体験入学・学校説明会・物品販売を予定しています。

時間 午後2時開始(受付 午後1時40分~55分)  
体験入学及び説明会後に学用品販売を行います。

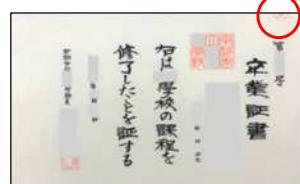
※当日1~3年生・つくし学級は午後1時過ぎに完全下校となります。

## 卒業証書の割り印について

卒業証書の割り印(証書の上の印／下図の○の印)について、京都市教育委員会の方針に基づき、省略しています。

割り印は、卒業証書と卒業証書台帳(卒業生の一覧が記録される帳簿)の関連を証明するため、2つの紙面にまたがらせて押す印鑑です。

押印に法令等の定めはなく、卒業証書と卒業証書台帳の関連も番号や氏名等で関連を証明できるため、押印作業の手間や、今後の台帳の電子化等も見据え、全市統一で割り印を省略することになったものです。



2月5日は「京都はぐくみ憲章」の日です

## 京都はぐくみ憲章

～子どもを共に育む京都市民憲章～



わたくしちは、

- − 子どもの存在を尊重し、かけがえのない命を守ります。
- − 子どもから信頼され、根柢となる行動に努めます。
- − 子どもを育む喜びを感じ、親も育ち学べる取組を進めます。
- − 子どもが安らぎ育つ、家庭の生活習慣と家族の絆を大切にします。
- − 子どもを見守り、人と人が支え合う地域のつながりを広げます。
- − 子どもを育む自然の恵みを大切にし、社会の環境づくりを優先します。

6年 京都水族館の方を  
ゲストティーチャーに招いて  
環境学習を行いました。

特別天然記念物である  
「オオサンショウウオ」の生  
態や生息地を学びこれまでの  
環境について考えました。

